国際ロータリー第2600地区
上田ロータリークラブ
（創立1959年11月12日）

WEEKLY REPORT

2021-2022年度 国際ロータリーテーマ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

R.I.会長　シェカール・メータ
国際ロータリー第2600地区　ガバナー　桑澤 一郎

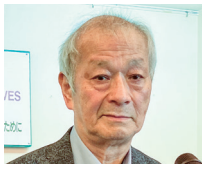
Rotary Club of Ueda

2021-22年度
上田ロータリークラブ
- 会長　米津 仁志
- 副会長　金子 良夫・湯田 勝己
- 幹事　柳澤 雄次郎
- 会報委員長　田邉 利江子

第２８７１回例会（令和４年６月20日）

ホームページQR

[退会セレモニー]　増田幸一さん



米津会長から過分なお言葉をいただきましたが、本日をもって退会させていただきます。32年前に入会させていただいてから楽しい思い出ばかりでしたが、これから後輩の方々がもっともっと上田ロータリーを楽しんで盛り上げていただけることをお願いさせていただき、僭越ながら退会の挨拶とさせていただきます。

（今後は会友となっていただけます。これからもよろしくお願いいたします。）

[入会セレモニー・新入会員挨拶]

- **有限会社ジェイ・シー・アイ・シーゆとりすと**
  代表取締役　高橋　鼓さん
- **推薦者：河田　純さん**

この度は、歴史と伝統ある上田ロータリークラブへの入会をご承認いただきありがとうございます。紹介者の河田様とは同じ町会に住んでおり、公私とも大変お世話になっております。今の家業を継ぐ際も、我々のように個人で事業する者は地域との繋がりが大切だとアドバイスいただき、肝に銘じてここまでやってきました。仕事は上田市常田で土地分譲、中古住宅の買い取り、空き家活用、アパート管理等、不動産業を全般に行っております。趣味は美術館･博物館など芸術に触れること、映画鑑賞、そしてギターをコレクションして少し弾くということです。あとは美味しいものを食べることでありまして、20年くらい前から比べますと体重も20キロ以上太ってしまいました。家族は妻と子供が４人おります。今年の８月で結婚20周年を迎える節目となっております。生年月日は昭和49年の４月生まれ、丁度今年寅年ということで年男の48歳です。今後は、ロータリーの活動を通じ社会奉仕活動に尽力して参りたいと思いますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

[会長挨拶]　米津仁志　会長

みなさん、こんにちは～土曜日、日曜日には上田ＲＣのロータリーデーの行事として、柳屋建設さんの駐車場をお借りして、フリーマーケットを開催しました。10の団体にご参加いただき、盛況のうちにお開きとなりました。ＲＣ財団の災害給付基金への寄付も集まりました。クラブ会報・公共イメージ向上委員会の田邉利江子委員長、土屋勝浩副委員長を始め、ご参加のみなさま、また場所を提供してくださった柳屋建設さん、誠にありがとうございました。

増田幸一会員が本日をもって退会されます。大変残念なことではありますが、どうぞ今後もクラブを見守っていただけたら幸いです。また本日、高橋鼓さんが入会されます。どうか早く上田ロータリークラブに親しんで、ロータリーライフを楽しんでいただきたいと思います。

鈴木哲会員より今期での退会届が提出されています。鈴木会員は平成２年に入会され、平成20年～平成21年には会長を務めておられます。その際にポール･ハリス･ソサエティの会員となり、以来毎年欠かさずロータリー財団へ寄付をされ、メジャードナーとして認証をされています。ベネファクターでもあります。また、米山記念奨学会にはこれまで23回の寄付をされています。これらの著しい功績を評して、当理事会としては上田ロータリークラブ内規第３条より、名誉会員に推薦を申し上げたいと思います。

さて、ロシア寄りの態度で有名な議員が、「ウクライナのゼレンスキー大統領は、欧米に武器供与を頼むような状態であるならば停戦するべきではないか」という内容をブログに書いてニュースになっていました。

実は、アメリカ合衆国議会は、今年の４月28日にウクライナ政府への軍需物資の供給を促進するために「2022年ウクライナ民主主義防衛・レンドリース法」という連邦法を制定しました。

私は戦争状態には全く賛成できませんし、早く戦争が終結してほしいと願っております。しかし、この法律は第二次世界大戦にナチスドイツに対抗するために、

●例会/毎週月曜日　12:30～13:30　●会場/ささや＝上田市中央2丁目(大門町)
●事務所/〒386-0024 上田市大手1-10-22 上田商工会議所内 ●TEL/0268-25-1039 FAX/0268-25-3711
e-mail：ueda-rc@oboe.ocn.ne.jp

連合国に物資や武器を支援したレンドリース法にちなんだ法律で、日本にも関係する部分があり、重要な法律だと思いますのでご紹介します。

1940年６月、第二次世界戦において、東欧、オランダ、ベルギー、フランスなどほとんどのヨーロッパ諸国はナチスのドイツに占領され、ドイツと戦っていたのはイギリスだけになっていました。イギリス国内ではドイツとの和睦を求める声もあったそうです。５月に首相に就任したチャーチルは徹底抗戦を訴えましたが、戦況は明らかにイギリスが劣勢でした。

このとき、イギリスを救ったのはアメリカのレンドリース法でした。レンドリース法、または武器貸与法は、アメリカ合衆国が1941年から1945年にかけて、イギリス、ソビエト連邦（ソ連）、中華民国（中国）、フランスやその他の連合国に対して、イギリスの場合はニューファンドランド、バミューダ諸島、イギリス領西インド諸島の基地を提供することと引き換えに、膨大な量の軍需物資を供給したプログラムです。1941年３月に開始されました。総額501億ＵＳドル（2021年の価値で9554億ＵＳドル）　の物資が供給され、そのうち314億ドルがイギリスへ、113億ドルがソビエト連邦へ、32億ドルがフランスへ、16億ドルが中国へ提供されました。フランクリン･ルーズベルト大統領は､国民とメディアに対して、この計画は火事を消すために隣人にホースを貸すようなものである、火事が収まったらホースを返してもらえばよい、と説明しました。

この法律によってイギリスは力を取り戻し、戦勝国になったのです。

このとき日本は枢軸国側にいました。日中戦争で日本は中国の多くの都市を占領しながらも敗戦しました。中国に対してレンドリース法によるアメリカの支援があったことも一因でしょう。

長野県の新型コロナウイルスの感染状況は、松本と北アルプス圏域の感染レベルが３、上田も含めその他すべての圏域の感染レベルが２以下です。以下の情報は私がインターネットから収集したものですので、ご了承ください。

新型コロナウイルス感染症の10万人当たりの新規感染者数は６月10日から６月16日の一週間の値で、長野県全体は48.82人（54.83人）、上田圏域は45.90人（54.15人）、佐久圏域が61.14人（53.32人）、長野圏域35.47人（50.87人）、南信州が39.91人（41.84人）、北アルプス圏域88.91人（112.03人）、木曽圏域は51.02人（19.62人）です。カッコ内は６月３日～６月10日の値です。

全国的には、全国平均で79.23人（90.67人）、大阪92.38人（109.21人）、東京79.53人（89.63人）、沖縄590.60人（602.62人）、石川県87.22人（105.42人）、富山県65.90人（56.38人）です。６月10日から16日の値です。（カッコ内は６月３日～６月10日の値です。

一人が何人に感染させるかを示す実効再生産数は、全国平均で１月９日に5.9人でピークを打ち、６月16日には0.96です。長野県は、１月８日に4.62人でピークとなり、６月16日で0.96人です。長野県内では６月16日現在、重症者はいません。

海外につきましては、アメリカが223.36人（228.09人）、フランス507.57人（279.16人）、韓国が102.14人（132.18人）、イギリスが132.55人（98.85人）、ドイツが478.05人（341.34人）、南アフリカ13.31人（19.43人）、中国0.09人（0.09人）です。６月17日現在の値で、カッコ内は６月10日の値です。国によってばらつきがありますが、改善しています。データは札幌医大フロンティア医学研究所のサイトから引用しています。

さて、ドラッカーの『経営者の条件』から、成果を上げるための五つの条件（時間、貢献、強み、集中、意思決定）をご紹介しています。今日はそのうちの「集中」について読んでみます。以下、引用します。

“大統領が手に入れられる唯一の情報たる報告書なるものはまったく助けにならない。これに対し、あらゆる国の軍が、命令を出した将校が自ら出かけ、確かめなければならないことを知っている。少なくとも副官を派遣する。命令を受けた当の部下からの報告を当てにしない。信用しないということではない。コミュニケーションが当てにならないことを知っているだけである。

大隊長自らが隊員食堂に出かけていって隊員用の食事を試食するのもこのためである。メニューを見て料理を運ばせることはできる。だがそうはしない。自ら隊員食堂に出かけ兵隊たちと同じ鍋からとる。 コンピュータの到来とともに、このことはますます重要になる。決定を行う者が行動の現場から遠く隔てられるからである。自ら出かけ、自ら現場を見ることを当然のこととしないかぎり、ますます現実から遊離する。コンピュータが扱うことのできるものは抽象である。抽象化されたものが信頼できるのは、それが具体的な事実によって確認されたときだけである。それがなければ抽象は人を間違った方向へ導く。”

Ｐ.Ｆ.ドラッカー『経営者の条件』ｐ188より引用

“コンピュータの出現が、意思決定に対する関心に火をつけることになった理由は多い。しかしそれはコンピュータが意思決定を乗っ取るからではない。コンピュータが計算を乗っ取ることによって、組織の末端の人間までがエグゼクティブとなり、成果をあげる決定を行わなければならなくなるからである。”

Ｐ.Ｆ.ドラッカー『経営者の条件』ｐ216より引用

『経営者の条件』は1967年の著作ですが、すでにコンピュータについて述べています。コンピュータのデータだけをみて判断するのではなく、実際に現場に行って現実を見て判断せよ、とドラッカーは言います。

一方、二つ目の文章ではコンピュータのデータが身近になるために、誰でも意思決定ができるようになる、エグゼクティブになれる、とも言っています。昨今話題になっているビッグデータは、やがて誰にとっても身近なものになっていくでしょうが、その抽象的なデータと現場の両方を見ながら意思決定をせよ、ということになるでしょうか。

次回は一年間のまとめをします。本日はありがとうございました。みなさまどうぞご自愛ください。

［小委員長退任挨拶］

■会員増強・Ｉ.D.M.委員会　飯島幸宏　委員長

二回目の会員増強と初のＩ.D.M.委員長を仰せつかり一年が過ぎました。まず最初に取り組んだのは８月例会の会員向けアンケート調査です。入会候補者とその方へのアプローチ方法を挙げていただきました。それを基に入会候補者リストを作成し、米津会長・柳澤幹事・金子副会長と随時、進捗状況を共有してきました。それによって30名以上の入会候補者に対し「いつ・誰が・どのように」アプローチすれば良いかが、ある程度明確になっていたと思います。

結果として８名の新入会員をお迎えすることができました。会長・幹事の創立62年の本年度62名の会員数を目指すという強い意志が、このような結果に繋がったと感じています。トップの会員増強にかける意気込みが大変重要なのと、全員で増強を進めていく仕組み作りが成功の鍵ではないでしょうか。

年度当初57名会員だったので62名会員を実現するのには５名純増が必要でありました。残念ながら転勤等を含めた退会者が６名、お亡くなりになった会員が１名、計７名の退会がありましたので純増は１名となり、年度末58名の会員数となりました。惜しくも目標には達しませんでしたが、地区においても入会者数は誇れるのではないかと思います。

一年を通じて「会員増強」について感じたことは、増強はあくまでも手段であって、どんなクラブを作っていくのか、どんなクラブを目指しているのかが重要かつ目的であり、それを実現するのには何名の会員数が適正なのかを考えていくべきだと思っています。ただやみくもに会員数を増やすのではなく、クラブ戦略計画に則した会員増強のあり方が今後求められるのではないでしょうか。

またＩ.D.M.については４月に入会３年以内のメンバーを中心に、桑原直前会長のお話しとワインを楽しむ会という構成で実施しました。コロナ禍もあり１回のみの開催でしたがロータリーに対しての見識が拡がるとともに、親睦が図れたと思います。コロナ禍で人と人とが分断され、直接人に会うことも憚れるような世の中にあって、ロータリーの様にいつでも繋がっている人間関係はいいな、と思う今日この頃です。

■職業分類（会員選考）委員会　柳澤日出男　委員長

１年間委員長を務めさせていただきました。先ほどの飯島増強委員長から挙げていただいた方々を粛々と職業分類そして選考をやらせていただきました。特に今ロータリーには職業分類による縛りが無いわけでありまして、委員会の有り様も考えて行かなければならないのかなと感じてきました。ただ、ある職業に偏りすぎることが無いようにバランス良く多種多様な職業人の会であるべきだと考えておりますので、会員を推薦される方はその辺も含めて考えていただければと思っています。それと、クラブ計画書に上田ロータリークラブの職業分類の表がございます。見てみますとどうも今の時代にそぐわない職業や、表に載らない新しい職業もあるわけであります。そんなことも含めて職業分類表を一度見直してみる必要があるのではないかと考えております。来年の矢島年度以降、その点も含めて作業していただければと思います。

■会場・出席委員会　関　宇陽　委員長

本年度は非常に変則的な例会開催であった事もあり、今ひとつ委員長としての働きが果たせなかった事反省しきりでございます。

思えば入会時に出席委員を仰せつかり、「会場委員は例会の設営と進行を一手に担う役職であるから軽々に休んではならぬ。役員以外の会員が来る前に全ての準備を終えておかなければならぬ。進行に支障をきたして会長に恥をかかせてはならぬ」と言い含められたものでしたが、こうした心構えを全員に徹底できたかというと甚だ残念ながら未達であると言わざるを得ません。

次年度の会場・出席委員会に置かれましては、遺憾ながら反面教師としていただきまして、優れた運営をしていただければ幸いです。

以上退任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

■親睦活動・家族委員会　内河利夫　委員長

本年度の当委員会の活動は、東近江ロータリークラブの来訪企画・おもてなし、６クラブ合同コンペなどがございました。また、コロナの影響で新春夜間例会や合同懇親会等は中止となってしまいましたが、納涼夜間例会や家族合同クリスマスパーティーは盛大に開催することができ、会員の親睦、友好が図れたと思います。しかしながら、家族旅行は盛大には出来たのですが、横沢さんの出欠をとるのを忘れてしまいまして申し訳ございませんでした。来年度は私が直接書面を持って参りますのでぜひ出席をお願いします。

最後に、斉藤副委員長、成澤さん、清水さん、小林さんを始め会員の皆様には委員会運営にご協力をいただきまして本当にありがとうございました。

■プログラム委員会　酒巻　弘　委員長

本年度も新型コロナウイルス禍のなかで、休会やオンライン会議等例会の予定を変更せざるを得ない状況がありましたが、プログラムに空きを作ることなく１年間実施することができました。

またプログラムの企画立案は会長、幹事の強い指導力の下実施され、現場での進行がスムーズに行われました。会員卓話等では会員の皆様のご協力に大変感謝申し上げます。１年間お世話になりました。

■デジタル化推進委員会　酒巻　弘　委員長

地区での新型コロナウイルス禍による各クラブの例会等への影響を危惧し、デジタル化によって対応をすすめる方針のもと、当クラブでは、会報のデジタル化、ホームページ上での掲載等を行うことができました。また、例会内で各会員へのマイロータリー登録、勉強会も実施させていただきました。それともう一つ、新型コロナウイルスの影響下でのオンライン例会の実施サポートを行ってまいりました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

■ニコニコBOX委員会　櫻井雅文　委員長

１年間、副委員長の中村さん、委員の滋野さんの３人体制で務めました。新型コロナ感染症の波が何度も繰り返し、通常例会を開くことが限られ、オンラインで開催されることが多くなった影響で、皆様のご喜投を預からせていただく機会が少なくなってしまった１年でした。にもかかわらず、多くの皆様にはご喜投をいただき、現在までに186万円、目標額まであと14万円のところまで参りました。残すは夜間例会のみとなるわけですが、何とか皆様のお力で達成できるよう最後まで宜しくお願いいたします。何だか選挙演説のようになってしまいましたが、これまでご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

■雑誌委員会　三井英和　委員長

ロータリーの友の紹介を関副委員長と隔月で行わせていただく予定で有りましたが、コロナ禍によるリモート等により数回の紹介にとどまってしまいました。しかし、会員のみなさまには、ロータリーの友をお読みいただく時間が返って増えたのではないかと思います。読んでいただくと大変参考になる記事が沢山ありますので、これからもぜひ愛読書にしていただき毎回ご活用いただきたいと思います。

一年間のご協力ありがとうございました。

■クラブ会報・公共イメージ向上委員会
田邉利江子　委員長

今期初めて委員長を務めさせていただきました。

「会報」の発行に必要な原稿の手配やご用意をしていただきました会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

また先週末、６月18日・19日「ロータリーデー」の開催にあたりましては、米津会長・柳澤幹事はじめ、会員の皆様のお力添え・ご協力をいただきまして開催をいたすことができました。本当にありがとうございます。２日間で、34,500円の募金が集まりました。そこに当クラブが10店の出店料の補助を足して、合計84,500円をロータリー財団・災害救援基金に寄付をいたします。

今期の事業計画では、会報は例会の情報だけでなく、「視覚的にも伝える・伝わることでイメージの向上や広報活動としても役立てられるように」と心掛けて発行してまいりました。また、必要なところは文字起こしをして、充実した紙面づくりにも心掛けてまいりました。今期、気になる記事がありましたら、ぜひ会報を振り返ってみてください。そうそう、これこれーと思っていただけたら最高です！！

そして、委員会メンバーであります、土屋副委員長さん、石田委員さん、宮下委員さん、小林委員さん。一年間支えていただきましてありがとうございました。また、分からない事、困った事があると、いつも柳澤幹事さんに助けていただきました。本当にありがとうございます。

この一年間の感謝の言葉を申し上げまして退任の挨拶とさせていただきます。

会員の皆様ありがとうございました。

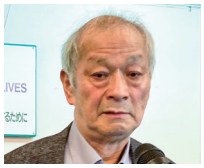
■ロータリー財団委員会　河田　純　委員長

今年度、年次基金の関係でマルチプル・ポール・ハリス・フェローに鈴木さん、米津さん、柳澤さんにご寄付いただきました。ポール・ハリス・フェローに土屋勝浩さん、斉藤達也さんにご協力いただきました。本当にありがとうございます。

ウクライナの支援基金におきましても232万円という大変大きな額をいただき、皆様に感謝申し上げます。

私自身あまり活動した訳ではなく、柳澤幹事にほとんどお願いしてしまった状況でありました。次年度は伊藤委員長だということですので今年度以上に充実した委員会にしていただけると思っています。本当にありがとうございました。

■米山奨学委員会　増田幸一　委員長



今年度やったことは、モンゴルからの奨学生によるゲストスピーチ、そしてクリスマス会にその奨学生を夫婦でお呼びしたこと、後は特別給付者として鈴木哲さんが例年ご協力してくださっております。また、幹事が湯田さんを見つけてくださいました。もう一人委員長の責任として私が給付させていただきました。

一応ノルマの３人を集めることができたということで、大任を果たせたものと自負しております。

■職業奉仕委員会　林　秀樹　委員長

１年間伝統ある上田クラブの職業奉仕委員長を務めさせていただきました。皆様の多大なご協力のおかげで、職業奉仕表彰の選定を行うことができ、職場例会も椀子ワイナリーで開催することができました。本当に１年間ありがとうございました。

■国際奉仕委員会　伊藤典夫　委員長

今年度 米津会長より国際奉仕委員長を拝命し、一年間を過ごして参りました。

当初 昨年度の酒井委員長からの引継ぎでは、ロータリー財団及び

米山奨学の両委員会への協力ということで、特別寄付に関する活動が役割であると考えておりましたが、財団は河田委員長、米山は増田委員長の御尽力で、どちらもノルマの達成が成され、私の出番は無く、気楽に過ごさせていただきました。両委員長様、大変ありがとうございました。

その後、今年に入りまして、ロシアのウクライナ侵攻が始まってしまい、国際奉仕委員会の出番となりまして、会員の皆様の大多数の皆様から御理解と御協力をいただき、ウクライナへの災害支援募金につきましても、他クラブに例のない程の高額な寄附をすることが出来ました。この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。一年間どうもありがとうございました。

■青少年奉仕委員会　窪田秀徳　委員長

青少年奉仕委員会は、小池文彦副委員長と２名で進めてまいりました。

本年は、昨年に引き続き各種大会や活動がコロナ禍によりハイブリッド開催や縮小開催に終始しました。そんな中で国際ロータリー第2600地区ローターアクト『2021-2022年度第45回地区年次大会』が４月16日にリモートにて開催され参加して参りました。それから『第32回ＲＹＬＡ』が５月14、15日と開かれ、こちらもリモートにて参加いたしました。

また、例年同様に「ボーイスカウト」「ガールスカウト」への支援金をお渡ししています。

それから、上田ロータリークラブへのフィードバックとして、６月13日に例会において『ＲＹＬＡ』の報告をさせていただきました。

微力ながら計画した活動を滞りなく行うことができました。皆さん、１年間お世話になりました。

［役員・理事退任挨拶］

■副幹事　小幡晃大さん

副幹事の引継ぎ時、クラブ計画書の作成、理事会での議事録作成、他委員会への応援等とお聞きしておりましたので、そこに関しては完璧に出来たものと思っています。

また、クラブ計画書も各委員長さんの協力のもと予定通り作成する事ができ、議事録も翌週には役員理事の皆様に提出する事ができました。

米津会長、柳澤幹事をはじめ、会員の皆様には一年間、大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

■Ｓ.Ａ.Ａ.　上島孝雄さん

本年度はコロナ禍でなかなか例会が上手くいかなくて、途中からはオンラインでの開催となりました。少し私の出番が少なくて残念なところもありましたが、最近はコロナのほうも一休みとなってきておりますので、私の入った頃にいただいた「例会こそがロータリーの基本である」という先輩の教えが生きてくるような気がします。新入会員の皆様も例会に出席することによってまた楽しいロータリーの一面が分かってくると思いますので、ぜひ来年度はそのようになることを期待したいと思います。皆さん、今年度色々と大変でしたがありがとうございました。

■会計　小山宏幸さん

１年間通じて、ネットバンキングの操作で予算執行の承認を月に数回行わせていただきました。コロナ禍の中で思うように予算執行が出来ず、また、多くの繰越金を次年に引き継いで行くだけかなと思われましたが、国際奉仕の関係で繰越金からウクライナ義援金を少し振替えられたことは良かったと思っています。

また、「会計係さん７」という少し不思議なソフトをやっと理解できるようになってきたところですが、もう少し決算報告が簡単にできるよう今後手直しさせていただきます。１年間本当にありがとうございました。

■副会長（第二クラブ奉仕委員長）　湯田勝己さん

１年間お世話になりました。初副会長ということでしたが、特に６つの委員会がある中で皆さん率先して活動していただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

■会長エレクト　矢島康夫さん

来年度の会長のためにじっくりと勉強させていただくことだと思っていましたが、10月には早くも会長エレクトの地区の研修会がありハッパをかけられ、12月には財団補助事業の説明会、地区委員の推薦そして、ＰＥＴ等何が何だかわからないまま進んで、一年があっという間に過ぎたような気がします。

来年度は、皆様のご指導、ご協力をお願いし、何とかやり遂げたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

■クラブ戦略計画委員長　直前会長　桑原茂実さん

米津会長、柳澤幹事は新型コロナウイルス感染禍の中で例会をリアル＆ウェブとのハイブリットで19回開催するなど各事業を、昨日のロータリーデーまで行ってくれました。またロシアのウクライナ侵略に対する支援も加えて大変お疲れ様でした。

クラブ戦略計画委員会ではコロナ禍で委員会は開催出来ずにメールでの意見交換となり非常に残念でした。２月７日（2858回）と４月25日（2866回）の例会で今後のクラブ事業の指針を提示させていただきました。（お忘れの方は会報、ＨＰをご覧ください）未来像は『豊かな自然と歴史、文化溢れる地域において、グローバル社会のなか時代の変化に対応した奉仕活動に目を向け、実施する。そして笑顔で活気溢れるクラブを目指す』です。今後の活動にお役に立てば幸いです。しかし

創立62年の良き伝統を壊すものではありません。例会受付では会場委員会と共に親睦委員会が居てゲストを案内する。家族同伴事業は自宅へ案内を郵送、書き損じはがき、使用済切手の回収、献血等は継続すべきだと思います。入会間もない委員長も多く就任しています。わからない事があったらどんどん質問してください。

[幹事報告]　柳澤雄次郎　幹事

1．米山奨学会
　ハイライトよねやま　267号
2．地区事務所
　2022-2023年度ＲＬＩ参加のお願い
　ロータリー財団寄付明細表(2022年５月)
　米山記念奨学会
　　①寄付金納入明細総合表(2022年５月)
　　②寄付金納入明細表(2022年５月)
　　③表彰一覧(2022年５月)
　　④寄付金傾向(2022年５月)
3．長野東ＲＣ　　メールアドレス変更のお知らせ
4．松本西南ＲＣ　　例会場変更のお知らせ
5．松本空港ＲＣ　　例会場変更のお知らせ
6．恩田金属工業㈱　代表取締役就任のご挨拶
7．例会変更
　上田六文銭ＲＣ　６月28日㈫
　　最終夜間例会　定受なし
　長野東ＲＣ　　６月22日㈬
　　最終例会を６月29日㈬昼開催に
　　変更し休会　両日定受なし
8．会報恵送　上田西ＲＣ

[ニコニコBOX]　櫻井雅文　委員長

伊藤典夫さん　小幡晃大さん　織英子さん　金子良夫さん　上島孝雄さん　河田純さん　北村修一さん　窪田秀徳さん　小山宏幸さん　酒巻弘さん　関啓治さん　関勇治さん　滝沢秀一さん　田邉利江子さん　土屋陽一さん　成澤厚さん　布施修一郎さん　増田幸一さん　丸山正一さん　宮川泰さん　矢島康夫さん　柳澤雄次郎さん　横沢泰男さん　米津仁志さん　櫻井雅文さん　中村邦彦さん　滋野眞さん　高橋鼓さん

本日喜投額　28名　¥　50,000
累　計　　¥1,860,000

[例会の記録]
司　会：関　宇陽　委員長
斉　唱：ロータリーソング「四季の歌～夏」
●退会セレモニー　増田幸一さん
●入会セレモニー　高橋　鼓さん
●会長挨拶　●幹事報告
●小委員長退任挨拶　●役員・理事退任挨拶

[ラッキー賞]
丸山正一さん(柳澤雄次郎さんより、とらやの羊羹)
土屋陽一さん(柳澤雄次郎さんより、とらやの羊羹)
滝沢秀一さん(矢島康夫さんより、白い恋人)
高橋　鼓さん(矢島康夫さんより、利尻昆布とさけとば)
成澤　厚さん(金子良夫さんより、妙高のコシヒカリ)

[出席報告]
関　宇陽　委員長

	本日	前々回(5/30)
会員数	61	61
出席ベース	56	52
出席者数	43	37
出席免除(b) ( )内は出席者数	11(6)	11(2)
出席免除(a)	0	0
メークアップ ( )内はMake up後		0(37)
出席率	コロナ禍の為 100	コロナ禍の為 100

[次回例会予定]
７月４日㈪　慶祝
　　入会セレモニー
　　会長方針説明
　　就任挨拶

(６月27日発行)
【会報担当】　土屋勝浩　副委員長

「ロータリーデー」開催

■開催日　令和４年６月18日㈯・19㈰
■会　場　柳屋建設様駐車場
■時　間　10時～15時まで

２日間で合計84,500円の募金が集まりました。
ロータリー財団　災害救援基金へ寄付いたします。
ありがとうございました！